

土砂災害から身を守る

近年の地球温暖化に伴う気候変動により、局地的大雨（ゲリラ雨）が頻発しており、土砂災害の増加、激甚化が懸念されています。雨の多い季節を迎え、土砂災害の基礎知識として以下の内容を参考にいただくと幸いです。

1. 異常気象と土砂災害

近年は地球温暖化の影響を受けて局地的大雨（ゲリラ豪雨）が増えており、土砂災害が起りやすくなっています。

そのため、過去に災害の発生していない箇所でも起きたり、過去にない大きな規模の災害が起る可能性が高くなっています。

日野郡でも、平成25年7月には江府町江尾で時間87mmの豪雨を観測し、江府町久連では人家に土砂が流入するなどの被害が発生しました。



平成25年7月15日（江府町久連）

2. 土砂災害とは

大雨により、山や住宅地にある急な斜面が崩れ、また崩れた土砂が雨水や川の水と混じって流れてくることによって、人命が奪われ、家や田畑や道路が土砂で埋まる災害を土砂災害と呼んでいます。

土砂災害は、大きく3つに分類することができます。

① がけ崩れ

急な斜面が崩れることをがけ崩れといいます。大雨の時に、一瞬のうちに起こることが多いため、家が壊れて、逃げおくれで亡くなる人が多いのです。



② 土石流

土石流というのは、山から崩れてきた土や石や岩が水と一緒に、ものすごい勢いで流れ落ちてくるものです。



③ 地すべり

地すべりは、斜面が広い範囲にわたって動くものです。家や田畑なども一緒に地面が大きな塊のまま動きます。



3. 土砂災害から身を守るために

(1) いつ危険なのか

土砂災害の危険性がきわめて高くなった時に発表される土砂災害警戒情報を知っておきましょう。

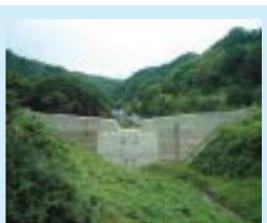
土砂災害警戒情報はテレビ・ラジオ・携帯電話・インターネットなどで広く多くの方へ情報提供されています。また、あんしんトリピーメールで自動受信したり、ケーブルテレビでも確認できます。

(2) どこが危険なのか

鳥取県では、土砂災害が発生した時に被害の及ぶ可能性のある範囲を土砂災害警戒区域（イエロー区域）として指定しています。町から配布されている土砂災害のハザードマップを確認し、日頃から身の周りの危険な場所を確かめておきましょう。

4. 土砂災害から守る施設

土砂災害から人命や財産を保全するために様々な対策工事を行っています。しかし、土砂災害の可能性がある箇所が到るところにあるため、それら全部に土砂災害を防ぐ施設をつくるには、長い時間と膨大な費用を必要とします。土砂災害から身を守るには、まずは危険なところから避難することが重要です。



砂防えん堤



擁壁・法枠

土砂災害のまえぶれ

土砂災害では、発生する前に前兆現象（まえぶれ）があるといわれています。もし、それらの現象に気がついたときは、できるだけ早く安全な場所に避難しましょう。

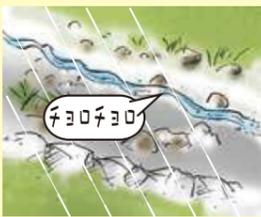
① がけ崩れ

- がけにひび割れができる。
- 小石が転がり始める。
- 樹木の異常な音がする。
- がけから急に水がわき出る。
- 異常な臭いがする。



② 土石流

- 川が濁り、樹木（なまの木）が流れる。
- 雨が降り続けているのに、川の水が減っている。
- 山鳴りが聞こえる。
- 異常な臭いがする。



大雨注意報

大雨による災害に注意を呼びかけます

大雨警報

重大な災害の恐れがある場合に警戒を呼びかけます

土砂災害警戒情報

大雨による土砂災害の恐れがさらに高まった場合に一層の警戒を呼びかけます

気象情報・防災情報の収集と土砂災害の前兆への注意



避難の準備



安全な場所への避難

